

令和7年度 秦野市食育推進委員会 会議録

日 時	令和7年9月1日（月） 午後7時から8時10分	
場 所	秦野市役所西庁舎3階 大会議室	
出席委員 12名	○会長 森 真理 (東京慈恵会医科大学) ○副会長 古川 弘子 (平塚保健福祉事務所秦野センター) ●委員（10名、以下順不同、敬称略） 秦野市農業協同組合 三瓶 壮文 秦野伊勢原食品衛生協会 神戸 和彦 秦野伊勢原医師会 古木 隆元 秦野伊勢原歯科医師会 平野 壮明 秦野市中学校長会 安藤 美千代 秦野市小学校長会 府川 伸 秦野市立幼稚園・こども園園長会 持田 由美 秦野市小学校教諭 小野 朋子 秦野市学校保健会 養護教諭 友廣 忍 市民委員 浜地 朋子	
欠席委員 3名	秦野市食生活改善推進団体 小澤 美代 秦野商工会議所 秋山 純夫 市民委員 加藤 裕美子	
事務局	秦野市こども健康部 守屋部長 こども家庭支援課 深川課長 こども家庭支援課 城所課長代理 こども家庭支援課 渡邊	
会議次第	1 開会（こども家庭支援課 深川課長） 2 委嘱状の交付 3 あいさつ（こども健康部 守屋部長） 4 委員・事務局自己紹介 5 議事（進行：森会長） (1) 「第3次はだの生涯元気プラン（秦野市食育推進計画）」 の進行管理について（取組状況調査表に基づき、事務局 から説明） ≪委員からの御意見、御質問≫ 基本目標3 評価指標「給食食材における秦野産野菜の使用割 合」について 秦野産の野菜を給食で使われていると思うが、一食120g摂って いるかどうかを検討したことはあるか。市場に出回らない品がつ たきゅうり等を使って年に何回か120gを味わう給食を実施でき ないか。	
古木委員		

	森会長	国の基準に則って給食の献立を作成しているのは確かだが、近年給食食材費が高くなつて、その基準どおりに野菜が使われているかどうかは確認ができていない。 学校給食に農業協同組合が野菜を提供していて、地場産食材が中学校給食で使用されているが、市場に出回らないようなものを学校給食に提供することに課題はあるか。
	三瓶委員	なかなか調理される方が難しいということで若干抵抗があるようだ。
	森会長	教育委員会に考えてもらうことはできるのか。
	事務局	秦野食育デーを設けていて、その日には地場産のものを使用した給食を提供する取組をしている。その中で1食120gの野菜を味わうといったキャッチフレーズをつけて実施することを教育委員会に提案してみたい。
	(2) 「仮称）第4次はだの生涯元気プラン」の骨子案について（事務局から説明）	《委員からの御意見、御質問》
	森会長	こども食堂が普及しているとのことだが、食事の内容がよくない状態のところもあると聞く。その辺の規定はあるのか。
	事務局	現時点では市内の7団体が「みんなの食堂」という活動をしているが、フードバンクから材料入手しているため、必ずしも栄養価が整っているとは言いきれない状況にある。ただ、共食を大切にしていく中で、地域とのつながりを重要視しており、近隣の農家から届いた野菜を取り入れて、なるべくバランスが良くなるよう心がけている。 今後、市からも地域と連携して情報提供をするなど、工夫していけたらと考えている。
	古木委員	朝ごはんの欠食と子どもの成績は関係するのか。
	平野委員	朝ごはんを食べると、下顎が動くことで脳血流が上がる所以、食べている子と食べていない子とで成績が違うというのは出ていると思う。
	森会長	自分には関係ないと考えている人がいて、本当は実際に課題がある人も多くいるが、その課題を解決するのに朝ごはんを食べたいと専門家は思うが、当の本人が分かっていないように見受けられる。データ的にはおそらく20代30代の成人の男性の欠食率

	がすごく高いと全国的には言われているので、子どもたちもそうだが、お父さんが食べていないということもあると思うので、全世代への対策が必要だと思う。
古木委員	一口 40 回噛むよう依頼するが、40 回噛むと 30 分かけないと一食終わらなくなるので、30 分かけていますかといつも言っている。ゆっくり食べると食べ過ぎないし、味わいながらゆっくり食べるといい。給食の時間は何分くらいとなっているのか。
安藤委員	15 分プラス準備くらい。
古木委員	お年寄りはそれくらいかかるけど、若い子なら速く噛めば、もう少し時間短縮できるのかもしれないが、噛むということも取り入れられたらいいなと思う。
森会長	教育委員会も、早寝早起き朝ごはんをずっと掲げているが、工夫は必要と考える。
古木委員	まずは啓発から。すぐ実行はできないが、なるべく子どもに宣伝の場を設ける。
神戸委員	アレルギーもあるかもしれないが、中学生にもなると残食率も多くなるということは好き嫌いも結構あると思う。食べろと強制はできない。
森会長	中学生は成長期なので、まだまだ小さい人と大きい人が同じ学年で、同じ量を食べると。ダイエットを考えている子は、主食に手を付けないとかがある。体格によって給食の量が決定できればいいが、担任の先生がそれを数値で出すのは難しい。その辺、中学校は特に難しいというのは議論になっている。
安藤委員	食べているところを見られたくないという子が少しづつ出てくる。思春期だから、本当は食べたいけれども、おかわりするのが恥ずかしいとか、結構そういうことを感じるお子さんがいるというのは聞いている。
森会長	自宅では食べないが、学校では食べるという子もいる。必要な量を給食で提供できているということが分かれば、安心して食べられると思うが、自分の体格と他の子の体格を比べて同じ量食べいたらという意識が特に女の子はあるのではないか。自分に対しての適量がしっかり分かるようなことをする必要がある。必要量だったら、食べても太らない。
安藤委員	生活のリズムが結構大きいのではないか。夜遅くまで起きている子が結構多いし、塾に行ってそれでまた帰りが遅くなる。

	<p>家庭科の授業などで、なんで朝ごはんが必要なのかとか、自分の体重に見合った量はどれぐらいがいいのかとか何かそういうものあればいい。</p>
森会長	<p>知識がないから、脂っぽいものはみんな食べないとか、そんな傾向がアンケートにもあった。授業でも取り入れていく必要があるのかもしれない。朝食に関しては家庭なので、なかなか行き届きにくいが、いい案はあるか。</p>
事務局	<p>それぞれの現場では食育に力を入れているが、様々な家庭環境がある中で、朝食の欠食率が下がっていかない。全国的に同じ傾向があるかと思うが、家庭にどのようにアプローチしていくかということと、家庭だったり、その子どもだったり、それに合わせた望ましい情報をどのように啓発していくかということが課題だと感じている。昨今、物価高で、食事をバランスよく食べることよりも、経済的に少しでも安く、お腹いっぱいにする方向にシフトしてしまうこともあると、どうしてもバランスのいい食事は二の次になってしまふことも大きな課題だと思う。その中でも学校給食は限られた予算の中で、バランスのよい食事を提供しようと努力しているので、そういうことを子どもたちを通じて家庭にも情報共有したり、次期のプランの中でデジタルを活用した情報発信の仕方というところも盛り込んでいく予定でいるので、行政として情報発信の方法については検討していく必要がある。</p>
	<p>(3) 第4次プラン改定に関するスケジュールについて（事務局から説明）</p> <p>《意見なし》</p>
	<p>(4) その他</p> <p>《委員からの御意見、御質問》</p>
古川委員	<p>骨子案の中で、食の安全に対する理解促進という項目において、栄養成分表示の適正化の促進というのがあるが、適正化というと、いわゆる食品メーカーに正しく栄養成分表示をしてもらう、食品表示法に則って表示をしてもらうというのが適正化ということになり、市民に栄養成分表示を活用してもらう普及啓発活動のようなものを進めていくという意図で今回このプランの中に落と</p>

事務局	<p>し込むなら、「栄養成分表示の活用の推進」という言葉のほうが適切ではないのかと思う。</p> <p>あくまでもこの栄養成分表示を見ながら御自身で選べるといったところに市では力を入れているので、いただいた御意見を参考に、こちらは直していきたい。</p> <p>それでは、これで議事は終了します。</p> <p>以上をもちまして、食育推進委員会を閉会いたします。どうもありがとうございました。</p> <p>―― 以上 ――</p>
-----	--

議事録署名人

会長 森 真理

委員 古川 弘子